大会報告

# WOC観戦記

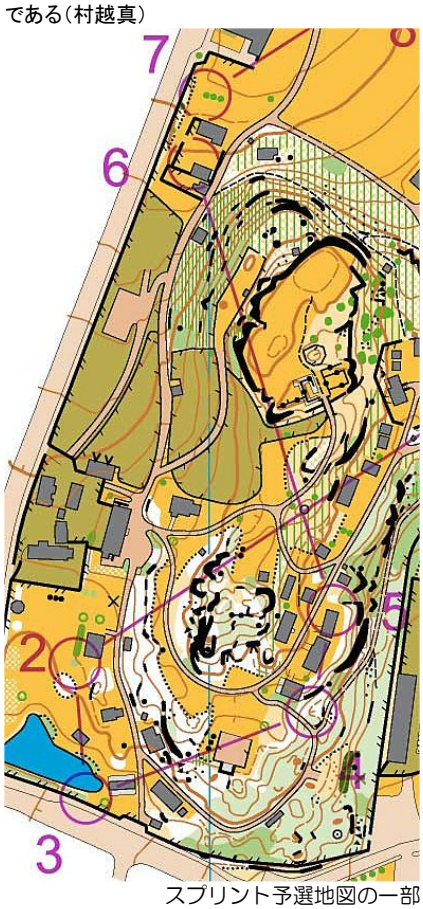
村越 真

## 世界オリエンテーリング選手権大会　2010 年 8 月 8-15 日 ノルウェー・トロンハイム

**残念ながら予選通過のなかった今回の世界選手権、手ごわいノルウェーの森に日本選手や海外のトップ選手はどう臨んだのか。**

2010 年 8 月 8-15 日
ノルウェー・トロンハイム市

13 年前は選手として過ごし、12 年前は大会（ユニバー）を前に家族の事情で現地を去ったトロンハイム。今回は観客として臨む。オリエンテーリング発祥の地ノルウェーからのレポートである（村越真）



スプリント予選地図の一部

### 「見せる」要素全開！

スプリントは、開会式の８日に行われた。予選がトロンハイム郊外の民家園とそれに隣接する小さな森で行われ、決勝は中心市街地の一部を通行止めにして行われた。

スプリント２回目であった2003年や2008 年のチェコなど、市街地でのスプリントはWOCの定番となった感がある。複雑な市街地を選手が疾走し、一般の人も含めた多くの観客が見守る。森の中とは違ったオリエンテーリングの魅力が味わえる刺激的な種目として、完成度を高めつつある。

日本チームは、男子が小林、山口、加藤、女子は朴峠、小暮、番場が出場した。

初出場で、この種目に絞って出場している小林は、「スプリントのスタート→１で、リズムが作れないまま崩れてしまった。地図を取って走りだした後、なかなか地図上でスタートが見つからないうちにスタートを過ぎていたのだが、それに気付かずミスしてしまった。日本ではミスにならないようなものだが、インカレなんかとはけた違いにそれが成績に響いてしまう。気にしていないつもりだったが、こんなに実力が発揮できなかったのは初めて。」と、初出場の難しさを語った。

世界選手権スプリント予選を駆ける小林遼

観客の合間を縫って走ることが必要なこの種目では、他国の選手も、大きなルートチョイスミスをしている様子が随所でみられた。ボールゲームのように要求される瞬時の判断。見られるというプレッシャーの中での最高のパフォーマンスへの努力。スプリントは、スポーツとしてのオリエンテーリングの一つの進化の姿と言える。

この日、日本チームは残念ながら予選通過なしだった。午後の決勝ではシモーネが 0.7 秒差でスウェーデンのヘレナ・ヤンソンを抑え、世界選手権１７個目の金メダルを獲得し、男子はやはりスイスのマティアス・メルツが優勝した。男子上位６人のタイム差は５秒以下。タイム面でも、スプリントは刺激的な種目だ。

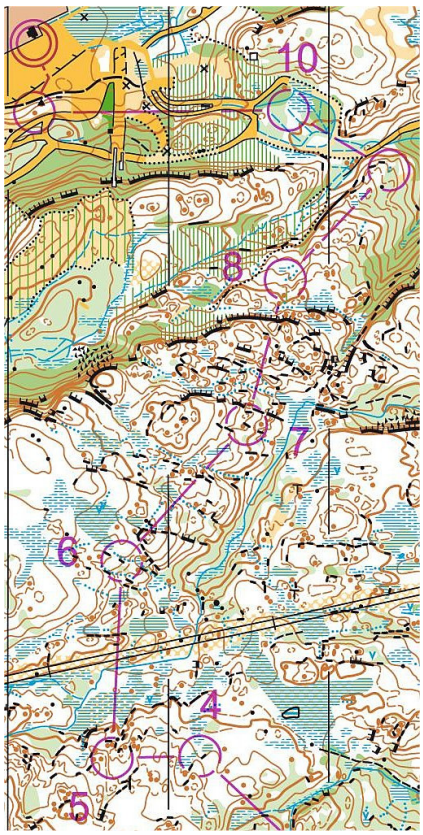
**世界選手権 2010 スプリント種目予選結果**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 男子予選 1（2.9km） | | | |
| 1 | Matthias Mueller | SUI | 14:57 |
| 28 | 加藤弘之 | 日本 | 18:24 |
| 男子予選 2（2.8km） | | | |
| 1 | Andrey Khramov | RUS | 14:52 |
| 31 | 小林 遼 | 日本 | 22:09 |
| 男子予選 3（2.9km） | | | |
| 1 | Emil Wingstedt | SWE | 15:01 |
| 26 | 山口大助 | 日本 | 18:16 |
| 女子予選 1（2.5km） | | | |
| 1 | Simone Niggli | SUI | 14:19 |
| 27 | 小暮まどか | 日本 | 21:45 |
| 女子予選 2（2.4km） | | | |
| 1 | Linnea Gustafsson | SWE | 14:39 |
| 27 | 番場洋子 | 日本 | 21:17 |
| 女子予選 3（2.5km） | | | |
| 1 | Emma Claesson | SWE | 15:34 |
| 23 | 朴峠周子 | 日本 | 19:47 |
| 男子決勝（2.74km） | | | |
| 優勝 | Matthias Mueller | SUI | 16:10,9 |
| 女子決勝（2.62km） | | | |
| 優勝 | Simone Niggli | SUI | 16:06,2 |

### 予選、通過者なし

翌日はミドルの予選がトロンハイム東方のヤルブスコーゲンで行われた。

日本チームからの出場は、男子は松澤、加藤、寺垣内。松澤は 15 位のボーダーから４分で 28 位だったが、結果的には日本男子ではこれが一番ボーダーに近い結果となった。女子は番場、加納、関谷。番場は 17 位と健闘し、一時は「たぶん、通過」とアナウンスされたが 15 位の予選通過ラインまで１分 30 秒で予選通過を逃した。加納と関谷はいずれもトップの倍のタイムであった。

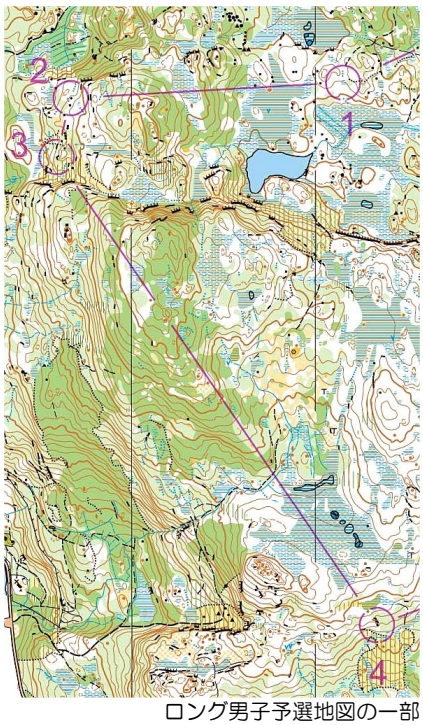


ミドル男子予選地図の一部

**世界選手権 2010 ミドル種目予選結果**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **男子予選 1（3.53km）** | | | |
| 1 | Anders Nordberg | NOR | 22:17 |
| 28 | 松澤俊行 | 日本 | 31:39 |
| **男子予選 2（3.47km）** | | | |
| 1 | Carl Waaler Kaas | NOR | 22:31 |
| 32 | 寺垣内 航 | 日本 | 39:14 |
| **男子予選 3（3.61km）** | | | |
| 1 | David Andersson | SWE | 23:04 |
| DSQ | 加藤弘之 | 日本 | 35:25 |
| **女子予選 1（3.09km）** | | | |
| 1 | Merja Rantanen | FIN | 25:18 |
| 28 | 関谷麻里絵 | 日本 | 53:24 |
| **女子予選 2（3.10km）** | | | |
| 1 | Anni-Maija Fincke | FIN | 24:55 |
| 17 | 番場洋子 | 日本 | 34:41 |
| **女子予選 3（3.06km）** | | | |
| 1 | Marianne Andersen | NOR | 24:45 |
| 26 | 加納尚子 | 日本 | 54:28 |

翌日のロング予選に臨んだのは、男子が山口、柳下、寺垣内。柳下が前半ミスをしつつもタイムをまとめ、初回としては健闘の 24 位であった。女子は小暮と朴峠ともボーダーから大きく離れて、男女ともやはり予選通過はなかった。



ロング男子予選地図の一部
３番から４番は 1.5km のロングレッグ
ヤブと湿地が進路を阻む

**世界選手権 2010 ロング種目予選結果**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **男子予選 1（8.68km）** | | | |
| 1 | Thierry Gueorgiou | FRA | 56:16 |
| 24 | 柳下 大 | 日本 | 1:17:37 |
| **男子予選 2（8.58km）** | | | |
| 1 | Franois Gonon | FRA | 55:09 |
| 30 | 寺垣内 航 | 日本 | 1:29:20 |
| **男子予選 3（8.51km）** | | | |
| 1 | Olav Lundanes | NOR | 54:58 |
| 28 | 山口大助 | 日本 | 1:16:28 |
| **女子予選 2（5.73km）** | | | |
| 1 | Anne Margrethe | NOR | 43:40 |
| 23 | 小暮まどか | 日本 | 1:23:48 |
| **女子予選 3（5.66km）** | | | |
| 1 | Simone Niggli | SUI | 40:46 |
| 22 | 朴峠周子 | 日本 | 1:04:09 |

やはり初出場の関谷は、次のようにミドルのレースを振り返る。「ふじでコンパスを使って、速い区間は早く走るという今までとは違うオリエンテーリングのスタイルを目指した。こちらにきて１週間のトレーニングで、どの特徴物が目立つかを吸収することはできた。なので、レースではやろうとしたことは６－７割はできた。ただ、やぶがちの難しい最初の部分でミスをしてしまった。コンターが複雑で、コンターを読むオリエンテーリングをしている自分にはつらかった。でも、ナヴィゲーションは全般にできていたので、今の自分はこれくらいなのかとも思う。世界選手権はやはり雰囲気が違う。」

リレーを走る関谷麻里絵（初出場）

また世界選手権５回目の大ベテラン加納は、「ミドル一本なので、絞って臨んだんですけど、結果はひどかった。（多くの人にとって難しい）前半は今までになくうまくできた。これまでと違って、練習ではノルウェーでも大きな特徴だけをとらえて走れるようになっていた。それがうまくいかずちょっとしたミスをした後のコントロールができなかった。これは想定外だった。他の選手と同じスピードで走って自分の限界以上のスピードで走っていたので、離された時に、自分のペースに戻すことができなかった。これは今後の練習の課題やと思う。13 年前（前回のノルウェーの世界選手権）に比べたら、確実に自分の中でスポーツとしてのイメージで臨めた。」

世界選手権ミドル予選を走る加納尚子

## ■森の中も魅せる！

8月12日からは、第一の応援対象である日本選手の出場はなくなってしまった。それはそれで残念な結果であったが、世界選手権の観戦の楽しみは日本選手の応援だけに限らない。いまやトップ選手の情報もウェブページですべて入手できる。決勝は予選の順位によってスタート順が決まり、後になるほど速い選手がスタートする。前日に発表されたスタートリストを参考に結果を予想しながら観戦するのは世界選手権ならではの楽しみだ。

TV放映のために3000万円以上をかけただけあって、森の中にもふんだんにカメラが設置されていた。その上、全選手にGPS受信機を持たせ、要所要所でそれをリプレイすることで、あたかも眼前で選手の競り合いを見ているかのような臨場感を味わえる。世界選手権ならではである。

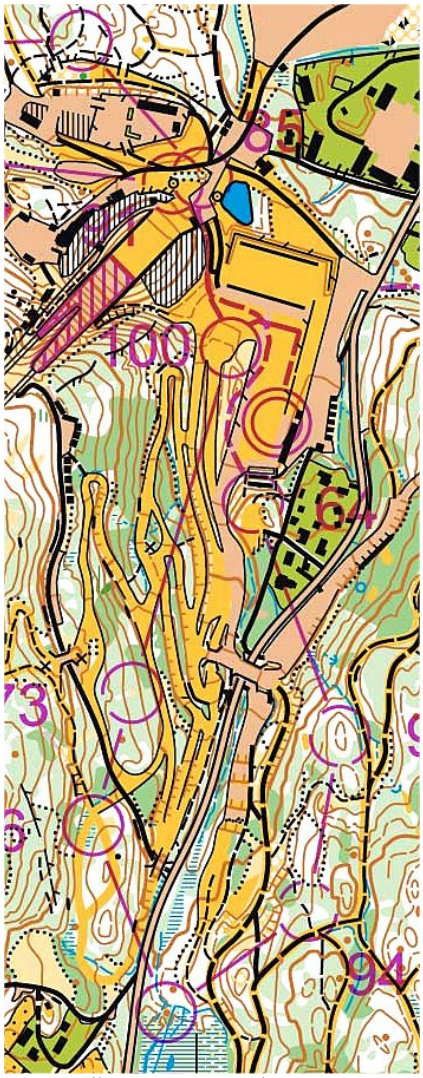
観戦者（特にノルウェー国内の）にとって今回のご褒美は、ミドルとロングの男子でノルウェー男子若手の健闘だろう。エース格のノルベリの調子が今一つだったものの、ロングではランドネス、ミドルではコースという20歳代前半の若手が活躍し、いずれの種目でもレースを制した。1980年代に黄金時代を築いたノルウェー男子も、最近はぱっとした成績がない。そんな中でも若手が颯爽と世界の頂点に就くところに、伝統と国内での層の厚さがうかがわれる。

個人的にうれしかったのは、フィンランドのミンナ・カウピの活躍である。ロングこそメダルが取れなかったが、ミドルでは後半のシモーネのミスをとらえ逆転、優勝に輝いた。一方のシモーネも「金を取るのは易しいことではないということをみんなが分かってくれたと思う」という、17個の金メダリストらしい味のあるコメントを残した。

二つの種目の中でも、ミドルの表彰式はとりわけ印象的な瞬間であった。男女合わせて８種目ある世界選手権の表彰式は、毎回IOFの理事が交代でメダルと表彰状のプレゼンターを務める。この日男子の表彰式のプレゼンター役に決まっていたのは、ノルウェーから選出されているアストリッド・ウォーラ・コース。ミドル種目チャンピオンに輝いたカールの実母である。

## ■プチ・ナショナリズム

個人種目の決勝進出者がいなかった日本にとって、リレーは唯一応援で盛り上がれる場面となった。午前11:30より女子、13:15より男子リレーがスタートする。女子は番場、朴峠、関谷の走順、男子は加藤、柳下、山口の走順である。女子は将来的なことも考えれば納得できるオーダー。男子の柳下はやや意外な感があったが、ロング予選をまとめた点が評価されたのだろうか。



世界選手権2010リレー地図
見せるレイアウトのため会場付近は複雑なコースレイアウトになっている。

リレーはさらに徹底してみせるアリーナ設定だった。１走こそスペクテーターレーンがないものの、２、３走では中間で500m以上会場の中を走る。誘導区間は全体で1kmを越える。またコントロールもTV写りのよい伐採地に設定され、会場ではGPSトラッキングをはじめとした「make invisible visible」な演出が数多くなされていた。GPSトラッキングはネットで有料配信もされており、ノルウェーに来ずとも世界選手権のライブ感覚が味わえる。一方で、オリエンテーリング発展途上国の人間としては、ヨーロッパ外での世界選手権開催の（心理的）バリアにならないか、やや気になる点である。

番場洋子、世界選手権リレーを走る

優勝は、個人戦ではいいところのなかったアンドレ・クラモフ（日本のロングでの優勝者）とヴァレンティン・ノビコフを擁するロシア。フランスは一昨年・昨年とアンカーのジョルジョが不運（一昨年は蜂に刺されリタイア、昨年は負傷者救助のために上位を脱落）に見舞われたが、今年もジョルジョが一つ先のコントロールに間違って向かうというアクシデントで表彰台から遠ざかった。女子はミドル決勝に続いてミンナがきっちりレースをまとめ優勝した。

フィンランド女子のウイニングラン
（世界選手権2010女子リレー）

男子リレー結果

| | | |
|---|---|---|
| 1 | ロシア | 2:09:51 |
| 2 | ノルウェー | 2:10:34 |
| 3 | スイス | 2:11:03 |
| 29 | 日本 | 3:00:27 |

加藤弘之/ 柳下 大/ 山口大助

女子リレー結果

| | | |
|---|---|---|
| 1 | フィンランド | 1:59:04 |
| 2 | ノルウェー | 1:59:15 |
| 3 | スウェーデン | 2:00:19 |
| 27 | 日本 | 3:04:27 |

番場洋子/朴峠周子/ 関谷麻里絵

## ■手ごたえはつかんだ

結果は出なかったものの、今年の日本チームは例年にない合宿体制で WOC を迎えた。やはり初出場の寺垣内は、準備の過程を肯定的に振り替える。

「吉田コーチのおかげで、頻度の高い合宿ができた。そこで直進＋歩測を使うオリエンテーリングをほぼ毎週のように練習できた。また６月のトレーニングキャンプにいった人から、さまざまな情報が得られた。トロンハイム・オープンのレースの GPS トラッキングのデータなどもみられたので、かなり情報のある状態で臨めた。地図も入手できていたし。特にマーシュをつないだ走り方のプランは相当できていた。海外との違いを意識してビジョンを持って準備するということはできたと思う。もっとも、日本では練習しにくい微地形が分かりにくく、想像していたよりもずっとわかりにくかった。特に B やぶ、セミオープンと地形がコンビネーションされるとわかりにくい。日本でやってきたことがうまくできなかった印象がある。採点するとすれば、C か D かな。」

世界選手権 2010 ミドル予選を走る
初出場の寺垣内航

また、学生として久しぶりに代表チームに選ばれた小林は、今回の準備が充実していた反面、テレインのギャップには悩まされたと、以下のように振り返っている。

「準備期間、苦しかったのが正直なところ。インカレに集中していたが、その後４月に選考会、５月にアジア選手権があって、一回もリフレッシュできなかった。研究室に配属されたりと、新しい環境になったことも影響しています。数多くの合宿をこなすなかで基礎的なことを振り返れたのはよかったですが、O-ringen で細かいところが崩され、それが取り戻せないまま WOC になったと思います。北欧ではまだまだ経験が足りないですね。でも、実際に出てみて思ったのは、日本でもやれることがまだまだありますね。たとえば基本的なこと、やぶの中の直進、そういうことを日本で 100%できるようになって、再度挑戦したい。２年前の WOC は観戦だったが、やっぱり出る方が数倍も楽しいので。」

また関谷は、「これからの課題としては、当面は体力面で基礎固めをしたい。具体的なことはまだ考えられていない。今年に入っていい練習ができたいたので、春くらいから強くなってきた気がする。それを継続していきたい。」

出場種目等の関係で、初出場の選手が中心になってしまったが、今年の強化体制は選手にとっても何らかの手ごたえを与えてくれたに違いない。来年は大陸のフランスだが手ごわい石灰岩質の地形が待っている。そしてその後はスイス、フィンランドと大会が続く。日本選手のさらなるブラッシュアップを期待したい。

ロング予選を走る小暮まどか

## ■舞台を支える

選手たちの熱い戦いの裏で、今後のオリエンテーリング界の方向性を決める IOF コングレスが開催された。コングレスでは、IOF の最高意思決定機関である総会だけでなく、ヨーロッパやそれ以外の地域会議、地図に関する会議などが開かれた。

今回の総会では、大きな議論となるテーマはなかったが、定款の改定や WOC のプログラムについての再検討を決議するなど、選手にも影響のあるテーマが２つほど提案された。定款の改定では、これまでの準加盟をやめ、正式加盟一本にする一方で、現在の準加盟国の受け皿として暫定加盟（最大６年間有効）を決めた。これは IOC からの示唆に応えるとともに、暫定加盟国にも世界選手権出場権を与えることで（現在の準加盟には世界選手権出場権はない）、その参加国を増やそうという目論見である。また、６年で消失してしまう暫定加盟国を正式加盟にするべく IOF や地域が暫定加盟国の発展に協力しあうことを意味している。また正式加盟国の重要な要件として、国内選手権の開催を挙げている。

WOC に関しては、現在個人種目ではロング、ミドル、スプリントの 3 種目が行われているが、距離が違うだけである。それに対してループを含むマススタートの導入や、現在もワールドゲームズで実施されている男女２名づつでのミックスリレーなどが、検討種目としてあがっている。

総会では２年任期の理事改選も行われる。今回は 1980 年代後半から理事を務め、最後は先任副会長を務め、理事会のよきリーダー役であったオーストラリアのヒュー・カメロン氏が職を退き、50 年近い IOF の歴史の中でも４人しか授与者がいない最高の栄誉「ゴールドピン」を贈られるとともに、会場からスタンディングオベーションを受けた。

またオリエンテーリング用地図に関する国際会議である ICOM では、発表は LiDAR(空からのレーザ光による測量)で、15cm 程度の誤差の標高データから得られた詳細な等高線を利用した O-map 作成についての発表がほとんどを占めた。ラトビアではこの 4 年間に 100 枚近い地図が LiDAR 原図により作成されている。等高線以外の情報の拾い上げ、細かくなりすぎる原図をいかに総描するか、など検討課題も多いが、GPS に代わる第三世代の地図作成技術になることは間違いない。

（村越 真）